

グリーンツーリズム研究
法政大学域学連携プログラム

法政大学現代福祉学部の学生が6日間滞在し、本市を拠点にした被災地復興支援について研究しました。復興支援を継続するために、観光とボランティア活動をセットにして人を呼び込む手法などについて、実地検証を行いました。



文化研究
文化フォーラム

「グリム童話と『遠野物語』」をテーマにしたシンポジウムと研究報告を実施。赤坂憲雄遠野文化研究センター所長や橋本孝日本グリム協会会長など著名な研究者が昔話の文化的価値などについて掘り下げ、文化資源を生かしたまちづくりを考えました。



市民向け体験教室
オープンカレッジ

同カレッジの取り組みを市民の皆さまに体感していただくため、オープンカレッジを年4回開催する予定です。これまで、春、夏のオープンカレッジを開催。春には6次産業化を目指す市内の農家や農業

関係者などを対象に対話会を行い、夏には市内の児童・生徒を対象とした体験講座、地域の若者による謎解きイベントなどを実施。楽しみながら気軽に参加し、遠野のまちづくりを考える場の提供をしています。

企業研修
DMSM研修 (若手リーダー研修)

国内企業の若手技術系リーダーと遠野市役所職員らが参加し、課題発見研修を実施。市外の参加者は、本市に滞在しながらフィールドワークに取り組み、民間企業の視点と行政の視点を生かしながら地域課題の解決策を探りました。



スポーツ振興
スポーツでつなぐ未来

遠野市スポーツまつりの一環で開催(P18参照)。Jリーグチェアマンの村井満さんや、元プロスポーツ選手らを囲み、遠野高サッカー部や市内の指導者らがスポーツを通じた復興支援やまちづくりについて対話を深めました。



多彩な取り組みを展開しています！

みらい創りカレッジでは、具体的にどのような取り組みが行われているのでしょうか。これまでに開催されたプログラムの概要を紹介。参加者にインタビューしました。



遠野みらい創りカレッジスタッフ(富士ゼロックス) 山田 敏哉 さん

みらい創りカレッジでは、▽異業種間交流▽企業研修▽自治体連携▽研究・教育機関連携▽グリーンツーリズム▽6次産業▽外部共催など、力テゴリ別に約20のプログラムを用意し、多彩な取り組みを展開しています。当初の年間目標の利用者数は2千人でしたが、開校5カ月目で達成し、現時点で約2600人まで増えています。普段顔を合わせる機会が少ない異なる立場の人との交流は、最初は誰でも緊張するもの。しかし、最新のコミュニケーション技術によって、参加者の緊張はすぐにほぐれていきます。どのプログラムでも、意見交換やアイデアを形にすることを楽しんでいる参加者の姿が見られました。市内の児童・生徒、若者が参加する機会も豊富。自分が生まれ育ったまちの魅力を再認識し、コミュニケーション能力を高めながら地域社会や海外とのつながり方を学んでいます。遠野で、そして世界で活躍する人材が、カレッジから生まれるかもしれません。

国際交流・大学連携
東京大学イノベーションサマープログラム



東京大と海外の大学生、遠野高校の生徒が、民泊体験やフィールドワーク、対話などを通じて遠野の未来を考えました。参加者は、自然や文化、住民の温かい人柄など、遠野の魅力を感じ、それを生かしたま

ちづくりを提言。また、高校生は大学生が考案した教育プログラムにも取り組みました。ライブを開催して若者を呼び込む、民俗学テーマパークを作るなど、若者らしい独創性あふれるアイデアが提案されました。

防災・後方支援研究
第1回自治体間の災害時後方支援活動研究会

南海トラフ地震や富士山噴火などを想定し後方支援体制の構築を目指す神奈川県南足柄市など、全国の自治体や民間企業の関係者が集い、災害時の後方支援のあり方を探りました。研究会では、有識者に

よる講演やパネルディスカッションのほか、ワークショップを実施。参加者からは▷平時から自治体や民間企業との連携を強める▷民間のノウハウを防災に役立てる一などのアイデアが出されました。



→ **information**
他にもたくさんの活動を展開しています

- <5月>▷遠野フォーラム…市内外の観光関係者が観光振興について研究
- <6月>▷地方自治体実地体験…新採用の国家公務員が地域住民と意見交換
- <7月>▷文化資本研究…研究者らが文化資本の継承と活用方法について議論▷グローバル企業経営塾…首都圏の高校生が企業経営についてフィールドワーク
- <8月>▷みんなの未来共創プログラム…産学官の人材

延べ参加人数(10月末現在)
2,634 人

Pick up!
遠野中生が対話を学習

カレッジのプログラムとは異なりますが、遠野中の2年生が、総合学習の授業でカレッジのコミュニケーション技術を学びました。カレッジのスタッフを講師に迎え、生徒は3回にわたり自分や遠野の未来をテーマに対話を深めました。また、同スタッフからプレゼンテーションの指導も受け、文化祭で総合学習の成果を全校生徒や保護者の前で堂々と発表しました。



東京大イノベーションサマープログラムに参加しました。大学生とのコミュニケーションを通じて自分の視野が広がり、課題の解決策を考えたり、アイデアを発表することが楽しく感じることができました。

遠野高校1年 宮崎 加菜 さん



NECネットエスアイ(株) 東日本支社長 浅川 人美 さん

行政職の人や住民からのアイデアは、民間企業にとって非常に参考になります。アイデアを日常業務に落とし込み、復興支援などに活用していきたいと思っています。

普段触れ合うことが少ない立場の人とのコミュニケーションを通じ、新たなアイデアが生まれる過程を体感できました。今後のまちづくりには、対話を取り入れていく必要性があると実感しました。



調布市役所 仁藤 美保 さん